Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-27

離島中学生の情報行動 : 長崎県・新上五島町での調査より

田畑, 暁生

(Citation)
神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要,5(1):67-74

(Issue Date)
2011-09

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81003439

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003439

KOBE UNIVERSITY

神戸大学大学院人間発達環境学研究科　研究紀要第５巻第１号　2011
Bulletin of Graduate School of Human Development and Environment Kobe University, Vol5 No.1 2011.

研究論文

離島中学生の情報行動：長崎県・新上五島町での調査より

The Information Behavior of Junior High School Students in the Island of Shinkamigoto-town of Nagasaki Prefecture

田　畑　暁　生＊
Akeo TABATA*

要約：2010年９月に、長崎県の新上五島町の中学生を対象として、情報行動を中心としたアンケート調査を行った。数種の全国的な調査とも比較対照の上、得られた顕著な結果は以下の通りである。１）各種の全国調査では、中学生のケータイ普及率は４割以上であるが、新上五島町ではそれよりはるかに低く、１割弱である。２）パソコンの所有状況は全国調査とあまり変わらず、平均利用時間は40分ほど、利用用途はインターネットの利用が多いが、利用時間は全国調査よりやや短い。３）テレビの視聴時間は全国調査と有意な差はない。４）長崎市などとの情報格差を感じている中学生は１割程度と少なかった。５）町民ポータルサイト「みっか」の知名度は約２割である。６）男女別のデータでは、ケータイの利用や、好きなテレビジャンルとしてのドラマ、パソコンで文章を書く、読書冊数、雑誌の定期的な講読、情報格差感といった項目において、女子生徒の方が男子生徒より有意に多い。７）学年別にみると、２年生においてパソコンの利用時間やテレビの視聴時間が最大となる。８）活字メディアと映像メディア、テレビとインターネットは利用の上で代替関係にあるとは言えない。

キーワード：情報行動、中学生、ケータイ、離島、新上五島町

はじめに

研究の背景

情報化の進展は、決して一様に進むものではない。経済状態、居住地域、年齢など、さまざまな社会的属性によって、まだら模様のように進展する。特に離島においては、地理的な条件から、情報インフラ整備も遅れ気味であり、いわゆる「本土」との間に情報格差があるのではないかとの懸念が広がっていた。

しかし近年、例えば市町村レベルでの「ブロードバンド・ゼロ地域」が解消され、ケータイ不感地域も市町村レベルでは解消されるなど、インフラについては地域間格差は徐々に解消されつつある。

とはいえ、インフラ面での格差が解消されても、その利用や活用の面での格差がゼロになるとは限らない。人々の情報メディア利用にどのような格差があるのかを知るためには、実際に調査を行うのが最も堅実な方法である。

研究対象を中学生に絞ったのは、成人を対象とする社会調査が、2006年の「住民基本台帳法」改正等の余波で無作為抽出によるサンプリングが困難という研究手法上の問題もあるが、もちろんそうした消極的な理由だけによるものではない。特に次代を担う世代についての情報格差の問題が、重要であるとの認識からである。さらに近年、中学生や高校生について、ケータイ中毒、あるいはネット中毒など、ケータイ・ネットにはまっているといった言説が、マスメディアを中心によく流布されている。こうした言説はたいていの場合、都会の子どもたちを暗黙のうちに前提としている。離島の子どもたちが実際にケータイやインターネットにどのくらい「はまって」いるのか、あるいはいないのかを知りたいというのも、研究動機の一つである。

新上五島町を対象として選んだ理由については、以下の「研究の目的」で詳しく述べる。

研究の目的

上記研究の背景にも述べたように、本研究の目的は、離島の中学生の情報行動、および情報意識や情報リテラシーについて調査することで、その情報行動および情報格差の実態を知ることにある。

研究対象としては、長崎県新上五島町を選択した。新上五島町は、長崎県に属する五島列島のうち、五島市となった「下五島地域」および小値賀島、宇久島（とその属島）を除く、上五島の自治体が合併して2004年８月に成立した自治体である。上五島町、有川町、奈良尾町、新魚目町が立地していた中通島と、同島と架橋された若松島（若松町が立地）が主島であり、この５町が合併した。人口は約２万人、交通は長崎、佐世保、そして福岡からフェ

＊　神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授

（2011年４月15日　受付
2011年４月16日　受理）

リーが通っている。1981年に空港も建設されたが、定期便は2006年に廃止され、空港自体の廃止も取り沙汰されている。観光資源としては「教会」が有名だ。特産品には「五島うどん」などがある。

地域情報化についても、新上五島町は活発に取り組んできた自治体の一つである。海を隔てて隣接する、同じ離島自治体である五島市の地域情報化が光ファイバー敷設などのハード整備中心であったとすれば、新上五島町の地域情報化はソフト事業中心で、後述する地域ポータルサイト「みっか」には、町民ブログサイト「みてみっか」、EC（電子商取引）サイト「こうてみっか」、観光情報サイト「いってみっか」、住民SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）サイト「してみっか」などを備えている。いわば離島の中でも、情報化には極めて熱心な自治体の一つと言うことができる。

新上五島町を選択した理由は、交通における隔絶性と、情報化政策による熱心さとを、兼ね備えているところにある。上述したように、新上五島空港が事実上閉鎖状態にあり、新上五島に渡るには長崎、佐世保などからのフェリーしかなく、海が荒れれば欠航するのである。また、情報化政策に熱心な自治体を選ぶことで、離島のハンディの克服に情報化政策がどの程度影響しているのか、主観的な情報格差感や、地域ポータルサイトの知名度を調べることで、明らかにしたいと考えたのである。

研究方法

中学生自身を対象にしたアンケート調査。新上五島町教育委員会の協力により、2010年９月に、六中学校のうち二校において全数調査を行った[1)]。質問項目は、上記の問題意識に沿って、情報行動を中心に、情報意識および情報リテラシーについての質問も含めている。調査結果は、適当と思われる統計的手法に従い、差の有意性についての検定等を適宜行っている。

ただ新上五島町の結果を述べるだけでは、その特徴を抽出することはできないので、2008年から2010年にかけて学齢期の児童を対象に行われた、３種の全国規模調査の結果と、類似した質問項目があって比較対照できるものは対照しながら記述する。その３種とは、文部科学省による『子どもの携帯電話等の利用に関する調査』[2)]（以下「文部科学省調査」）、内閣府による『平成22年度青少年のインターネット利用環境実態調査』[3)]（以下「内閣府調査」）、日本PTA協会による『平成21年度マスメディアに関するアンケート調査』[4)]（以下「PTA調査」）である。これらの調査についての詳細は注釈に示した。

既往研究との関係

新上五島町を対象としたもののみならず、離島の児童の情報行動についての総合的な調査は、私が調べた限りではこれまで存在しない。児童を対象とした情報行動調査は、前節に述べた「文部省調査」「内閣府調査」「PTA調査」など数種類存在する。より小規模な、例えばある学校を対象としたケータイ利用調査などについては、本論文の中でも主要なものについては言及しておいた。また、一般を対象とした情報行動調査は、大規模なものとしては、東京大学社会情報研究所・情報学環が五年ごとに行っている「情報行動センサス」をはじめ、NHKや、電通、博報堂などの大手広告代理店に付属するシンクタンク（電通総合研究所、博報堂生活総合研究所）も、それぞれの問題意識に沿った設問で情報行動に関する設問を含む全国調査を行っている。その中で本論文のオリジナリティは、離島の中学生に的を絞っていること、さらに、新上五島町という特殊な条件を利用して、情報格差感や、地域ポータルサイト「みっか」の知名度といった、地域情報化政策の効果と密接に関わるような設問に踏み込んでいるところにある。

１．ケータイ利用に関して

子どもの携帯電話機器（現在では電話機能のみならず多数の機能を備えているので、以下では「ケータイ」とする）の利用に関しては、既に様々な問題が指摘されている。例えば携帯依存（特にメール依存）であり、あるいはいじめの問題である。では、この新上五島町の中学生は、どのくらいケータイを利用しているのだろうか。

中学生のケータイ所有率は、2008年の文部科学省調査で45.9%（但し対象は中学２年生のみ）、2010年の内閣府調査では45.7%、同じく2009年にPTA調査では42.1%（但し対象は中学２年生のみ）と、いずれの調査でもほぼ４割台という結果が出ており、他の調査にはさらに所有率が高いとするものもある（例えば、竹内＋金山では、公立中学校12校を対象とした調査で、2009年に所有率は63.4%としている）。とはいえ、文部科学省の調査においては、大都市部と郡部とで携帯の所有率が大きく違うことも報告されている[5)]。

モバイル社会研究所とGSMAとが共同で2009年７・８月に行った国際比較調査（対象国は日本の他、韓国、中国、インド、メキシコ、キプロス）においても同様に、日本における中学段階での携帯の所有率は、12歳で32%、13歳で41%、14歳で45%、15歳で82%という結果が出ている。中学生の平均年齢を13歳と14歳の間とすれば、やはり平均で４割台ということになるだろう[6)]。

中高生のケータイ利用による病理も各種の書籍や論文で指摘されている。例えば埼玉県の教育委員会による「ネットいじめ等対策検討委員会」の調査では、2008年の７月に公立中学・高校生を対象にアンケート調査を行った（中学生13605人、高校生5724人）。その結果、ネットいじめがあったと答えた者が中学生で20.3%、高校生で25.8%、携帯やパソコンを使ったメールや掲示板、プロフなどに悪口を書き込んだり、相手に嫌な思いをさせたことのある者も、中学生で6.8%、高校生で6.6%となっている（下田［2009］, pp.70-72)。

こうした先行研究やデータを踏まえ、筆者の実施したアンケート調査においても、ケータイ利用についても４割程度が所有しているのではないかと予想し、それに応じて多数の設問を用意していた。しかし結果的には、新上五島町の場合、中学生個人のケータイの所有者は、上記の調査で出現したような数字と比べてはるかに低く、回答数122名のうち９名（7.4%）であった。所有者が９名という少数では、それ以上の利用行動の調査結果はあまり大きな意味を持ち得ないが、一応結果を紹介しておく。

まず、月額の料金であるが、3000円以下が４名、3000円から5000円が３名、無回答が２名であった。さほど高額な料金にはなって

いない。あらゆる機能を含めた利用時間は、２時間から３時間が１名、１時間から２時間が１名、30分から１時間が３名、30分以下が４名、無回答が１名で、１時間以下が圧倒的に多い。うち通話時間は、１時間から２時間が１名、30分以下が７名、無回答が１名である。

メールの送受信についても、送信・受信ともに10通以下という回答が６名と所有者の２／３を占めている。両者とも10通から20通が１名、20通から50通が１名、そして100通以上受信するという生徒も１名（送信については無回答）いるが、最後の１名はいわゆる「迷惑メール」を含めているのかもしれない。

ケータイでどのような機能を使っているかという質問（複数回答可）では、多かった順に「写真の撮影」（７名）、「音楽のダウンロード」（５名）、「動画の撮影」（４名）、「ワンセグの視聴」（３名）、「検索」（３名）、「ゲーム」「GPS」「おさいふケータイ」「SNS」（各１名）で、「ブログ」は０名であった。「検索」の低さはやや意外だが、意識しないうちに利用している可能性もある。

ケータイの「ながら行動」についても尋ねたところ、「就寝直前や起床直後」においては、「よく使う」が２名、「時々使う」が２名、「まれに使う」が２名、また、「テレビ視聴中」は「よく使う」が２名、「時々使う」が３名、「まれに使う」が１名と、高い頻度を示した。「食事中」は「時々使う」２名、「まれに使う」１名、「読書中」は「まれに使う」が２名、「通学中」や「入浴中」にケータイを使うという回答はなかった。

ケータイ非所有者113名に「自分のケータイが欲しいですか」という設問で「所有意向」を尋ねたところ、「とても欲しい」が32名（28.3%）「ある程度は欲しい」が49名（43.4%）と、両者を合わせると７割を超え、所有意向がかなり高いことが伺える。反面、「あまり欲しくない」は23名（20.4%）、「まったく要らない」は９名（8.0%）であった。

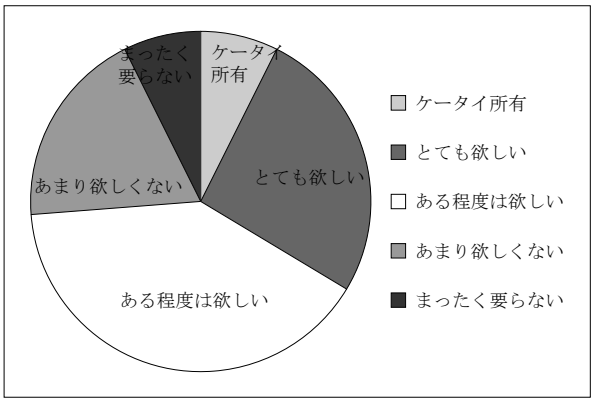

図１　ケータイの所有および所有意向

２．パソコン利用に関して

情報化が進展する中で、パソコンの利用が増えていることも当然に推察されるので、パソコン関連の質問も所有と利用に関して用意した。まずパソコンの所有に関して、自分用のパソコンがあるは122名中６名（4.9%）、家族共用のパソコンがあるが88名（72.1%）、家にパソコンがないが28名（23.0%）であった。

前述の内閣府の調査における中学生のパソコン所有率は、自分専用のパソコンがあるが6.6%、家族共用のパソコンがあるが

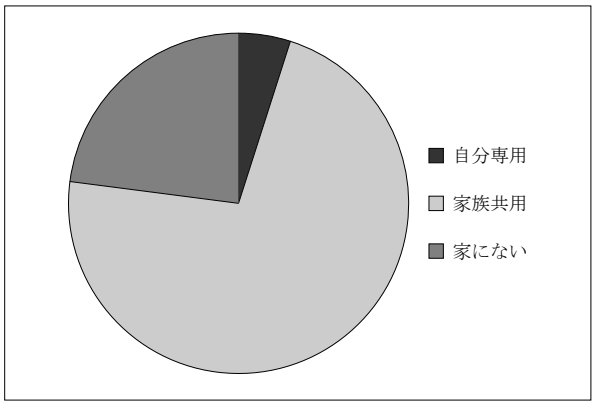

図２：パソコンの所有形態

69.7%、日本PTA協会の調査では「子供専用のパソコンがある」が4.6%、「親と共用」が66.6%、「兄弟と共用」が5.3%であったため、パソコンの所有については、ケータイと違い、こうした全国調査とほぼ同じという結果となる。やや興味深いのは、前述のケータイ所有者９名と、自分のパソコン所有者６名がまったく重なっていないことであった。

パソコンの利用時間は、４時間以上８時間以下が２名、２時間以上４時間以下が３名、１時間以上２時間以下が17名、30分以上１時間以下が26名、30分以下が50名、無回答が24名であった。度数の中央の値で代表させ、無回答は０分とすると、平均の利用時間は約40分となる。

パソコンの用途についての質問（複数回答）では、最も多かったのが「インターネットを使う」で76名（全体の62.3%）、続いて「音楽を聴く」48名（同39.3%）、「ゲームをする」47名（同38.5%）、「DVDを視聴する」24名（同19.7%）、「文章を書く」18名（同14.8%）で、「表計算ソフト」を使う、および「その他」は３名（同2.5%）、プレゼンテーションソフトを使うは１名（同0.8%）と、少なかった。インターネットやゲーム、DVD視聴などにパソコンを使っても、文章や表計算といった事柄にパソコンを使う中学生は少ないことが見て取れる。

前述の日本PTA協議会の調査では、中学２年生を対象にパソコンの用途について尋ねているが、「ホームページを見たり調べたりする」が69.4%、「音楽を聴いたり作ったりする」が57.5%、「ゲームをする」が50.5%、「文章を書いたりワープロとして使う」が14.3%、「表計算やデータベースのソフトを使う」が4.0%という

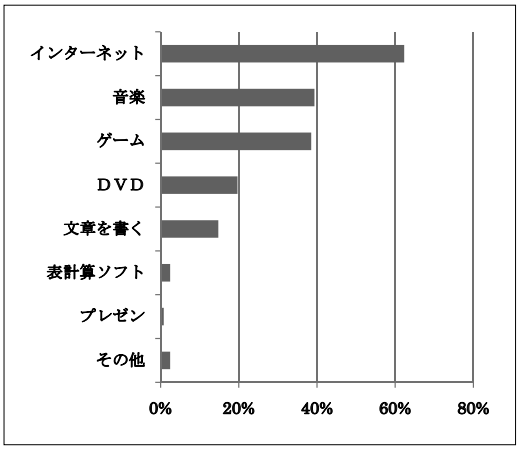

図３：パソコンの使用用途

結果となっている。カテゴリー分けに多少の違いはあるものの、新上五島町での調査と大きな差異は見られない。

前述の文部科学省および内閣府の調査には、パソコン利用時間の項目はないが、インターネット利用時間の項目がある。内閣府調査では、中学生の平均のインターネット利用時間は49.8分だが、これは「パソコンでインターネットを利用している」利用者414人の平均であり、全体の540人で割ると38.2分となる。文部科学省調査では、平均インターネット利用時間は63.5分と長いが、これは中学2年生のみであり、新上五島町でも後述するように中学2年生のパソコン利用時間は最も長く57分である。これらの数値と比較すると、新上五島町での中学生のパソコン利用時間は、特に短いわけではなく、ほぼ全国平均並みと推定できるのではなかろうか[7)]。

3．マスメディア利用に関して

ケータイやパソコンといったパーソナルメディアの利用が増加していると言われる中で、マスメディアの利用形態がどのように変化しているのかも、興味深いところである。

まずテレビの視聴時間は、8時間以上が1名（0.8%）、4時間から8時間が10名（8.2%）、3時間から4時間が22名（18.0%）、2時間から3時間が33名（27.0%）、1時間から2時間が33名（27.0%）、30分から1時間が18名（14.8%）、30分以下が5名（4.1%）であった。8時間以上を8時間（一日に10時間以上テレビを視聴する状況は考えにくい）、30分以下を15分とし、他については度数の中央の値を取って平均してみると、テレビの平均視聴時間は2時間24分程度となる。

日本PTA協会の調査においては、平日の中学生のテレビ視聴時間は2～3時間が27.5%と最も多く、1～2時間が26.0%、休日では3～4時間が多くなり22.0%、2～3時間が19.6%といった結果で、大きな違いはない。

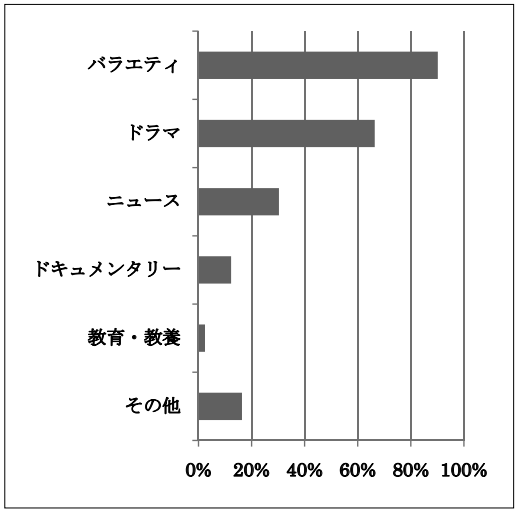

図4　よく見るテレビ番組のジャンル

よく見るテレビ番組のジャンル（複数回答）は、上の図4に示した。バラエティが110名（90.2%）、ドラマが81名（66.4%）、ニュースが37名（30.3%）、ドキュメンタリーが15名（12.3%）、教育・教養が3名（2.5%）、その他が20名（16.4%）という結果となった。娯楽的な利用が中心であることが伺える。「その他」の中身には、「スポーツ」や「アニメ」といった回答が寄せられた。

ラジオについては、「ほぼ毎日聞く」は1名（0.8%）にとどまり、「時々聞く」が17名（13.9%）、「めったに聞かない」が64名（52.5%）、「まったく聞かない」が40名（32.8%）という結果となった。

新聞については「毎日読む」が4名（3.3%）、「ほぼ毎日読む」が5名（4.1%）、「時々読む」が33名（27.0%）、「めったに読まない」が28名（23.0%）、「まったく読まない」が52名（42.6%）であった。

読書については、教科書・参考書以外の、一ヵ月の読書冊数を尋ねている。最高で50冊、最低で0冊（9名、すべて男子生徒）、平均で4.4冊である。一人で多数読む少数の生徒が平均値を押し上げているので、実際には1冊から3冊程度の生徒が多い（1冊が24人、2冊が23人、3冊が20人）。また、特に活字本に限るといった注意書きをつけていないため、実際にはマンガ類も数に含まれているだろう。ちなみに「第56回学校読書調査」[8)]では、中学生の一ヵ月の平均読書数は4.2冊であり、新上五島町調査とほぼ同数であった。

定期的に講読している雑誌の有無を尋ねた（複数回答）ところ、雑誌名を回答した者は39名であった。多かった回答は、nicolaが7名、（週刊）少年ジャンプが5名、Seventeenが4名、Myojoが3名、アニメディア、ベースボール、ポップティーンが各2名であった。その他1名のみの少数回答として、文学少女、アニメージュ、月刊LaLa、月刊EXILE、コロコロコミック、フラワーコミック、クチコミといった雑誌名が挙がっている。ちなみに日本PTA協会の調査においても、最も好きなコミック・漫画を一つだけ挙げよとの設問があるが、中学生の第1位は少年ジャンプ（18.3%）で他を圧倒しており、人気の高さが伺える。新上五島町調査で名前が挙がっているnicola（3.4%）、Seventeen（4.2%）、popteen（3.1%）等もランキング入りしており、大きな傾向の違いは見えない。

4．情報格差意識および情報リテラシー

新上五島町は交通面での不利を負った離島自治体であり、そのことに伴う心理的な情報格差意識があるのかどうかは大きな問題であろう。それについて、具体的に、身近な大都市である長崎市や佐世保市と比べた場合の情報格差意識があるかどうかを尋ねた。結果は格差を感じるという回答は14名（11.5%）に止まり、新上五島町の中学生の多くが情報格差を感じていないことが分かった。格差を感じるという回答の理由としては、雑誌や新聞、本の発売が遅れるといったものが多く、その他、店舗での品揃えや流行、映画などが挙げられていた。

また、情報リテラシーの水準を調べるため、インターネット用語のいくつかについて、それを知っているかどうかを尋ねた[9)]。その中に、新上五島町のポータルサイトの名称である「みっか」を加え、地域情報についても中学生がどのくらい意識しているのかを調べてみた。

知名度の高い順に挙げると、「グーグル」44名（36.1%）、「みっか」24名、（19.7%）、「スマートフォン」14名（11.5%）、「LAN」7名（5.7%）、「ADSL」3名（2.5%）、「ブロードバンド」および

「ビット」1名（0.8%）という結果であった。「みっか」の知名度は約2割であった。インターネットを日常的に使用していれば、代表的な検索エンジンであるグーグルは当然使ったことがあるだろうと推察されるけれども、知名度が36.1%ということは、それを「グーグル」と意識していないのかもしれない。

5．性別および学年での差異

メディアの利用形態において、性別や学年での違いはどの程度あるのだろうか。また、その違いは統計的に意味のある違いなのだろうか。カテゴリカル・データについてはカイ二乗検定、数値的データについては分散分析を用いて有意性の検定を行った[10)]。

まず男女別から見ておこう。回答者は男子生徒58人と女性生徒64人で、ほぼ同数だがやや女子生徒が多い。

まずケータイの所有については、男子1人に対して女子8人で、カイ二乗検定にかけたところ、5%有意で女子の方が所有割合が高い。

パソコンの所有については、自分のパソコンを所有しているのが男子2名に対し女子4名と、多少高かったが、5%有意ではなかった。パソコンの平均利用時間（利用しない者も含む）は、男子が約30分であったのに対し、女子は約48分と長いが、5%有意では なかった。

パソコンの利用の用途について有意な男女差があったのは「文章を書く」で、女子が14名に対して男子が4名、5%有意で女子の方が割合が高かった。「音楽を聞く」や、「DVDを聞く」などで多少の割合の違いはあるが、いずれも5%有意ではなかった。

テレビ視聴時間については、男子は平均2時間18分、女子は平均2時間28分と、やや女子の方が長いが、これも有意ではない。よく見るテレビ番組のジャンルでは、「ドラマ」においては0.1%有意、「ドキュメンタリー」においても5%有意で、女子の方が回答者が多かった。

一ヵ月の読書冊数は、男子が平均2.5冊、女子が6.0冊。また、定期的に買っている雑誌があると回答したのも男子が6名、女子が33名と、書籍と雑誌の講読について男女間で有意な差がついている。情報格差感についても、感じているという回答は男子3名に対し女子11名と女子の方が有意に多いが、それは前節で述べたように、格差の理由として雑誌や流行などの面での遅れがあるという回答の多さからも伺うことができよう。新聞を「毎日読む」「ほぼ毎日読む」割合は女子が12名に対し男子が6名、ラジオを「ほぼ毎日聞く」「時々聞く」の割合についても、女子が6名で男子が3名と、女子の方が多いが、これは5%有意ではない。

次に学年別にデータを見てみよう。回答者のうち、中学1年生が41名、2年生が46名、3年生が35名である。

ケータイの所有者は1年生2名、2年生4名、3年生3名であった。パソコンの個人所有者は、1年生で2名、2年生で4名、3年生0名である。パソコン使用時間（全体）は、1年生が約29分、2年生が約57分、3年生が約30分で、2年生が最も長く、1年生、3年生のおよそ倍の時間使用している。分散分析を行うと、差は5%有意であった。これは3年生になると受験勉強等でパソコンの使用が減少することを示しているのかもしれない。カイ二乗検定を行うと「文章を書く」のみ1年生が2年生、3年生よりも有意に低い。

テレビ視聴時間は、1年生の平均2時間7分、2年生は2時間49分、3年生は2時間10分、という結果である。こちらも、2年生が最も長く、3年生になると減少、という傾向を示している（但し、分散分析を行ったところ、差は5%有意ではなかった）。よく見る番組ジャンル別については、学年によって有意な差は見られない。

一ヵ月あたりに読む本の平均冊数は、1年生4.7冊、2年生4.5冊、3年生3.7冊で、やはり受験を控えた3年生がわずかに少ないものの、これも分散分析で差を検定してみると有意な差とは言えない。ラジオや新聞への接触頻度についても、学年間で有意な差はなかった。

6．メディア利用間の相関関係

メディア利用の間には、代替関係や補完関係があると考えられる。一回の調査でメディア間の代替や補完を考えることは困難だが、メディア利用時間や頻度の相関係数を算出することで、中学生個人にとって二つのメディアが代替関係にあるのか、補完関係にあるのかを推定することができる[11)]。代替関係にあれば－1に近い数字が、補完関係にあれば1に近い数字が出るであろう。ここでは、活字メディアと映像メディアとの関係、および、同じ映像メディアであるテレビとパソコンの関係に絞って、考えてみたい。

まず、テレビやパソコンの利用が、新聞や読書[12)]といった旧来型の活字メディアを代替しているのかを見てみよう。

テレビの視聴時間と新聞の閲読頻度との相関係数は－0.098、テレビ視聴時間と月間読書冊数の相関係数は－0.06とで、いずれも負数ではあるもののほぼ0と言ってよい。つまり、テレビ視聴時間と新聞の閲読頻度や一ヵ月当たりの読書冊数はほぼ無相関であった。よく見るテレビ番組としてニュースを挙げているかどうかと、新聞の閲読頻度との相関も、0.085でほぼ無相関という結果となった。

次いで、パソコンの使用時間とテレビ視聴時間との相関を計算してみる。結果、相関係数は0.131と、これもほぼ無相関と言ってよい数値となった。

ここから、パソコンやテレビが旧来型の活字メディアを代替しているわけでも、また、パソコンやテレビを見るほど旧来型の活字メディアを多く使う（補完）しているわけでもなく、両者の動きはほぼ無相関であるということが分かった。つまり単純に、活字メディアを映像メディアが代替している、あるいは、パソコンがテレビを代替しているという「代替仮説」は（および「補完仮説」も）、単純には成り立たないことが推察される。

おわりに

本調査によって得られた結果を簡潔に繰り返すと、以下のようになる。

1）各種の全国調査では、中学生のケータイ普及率は4割以上であるが、新上五島町ではそれよりはるかに低く、1割弱である。

2）パソコンの所有状況は全国調査とあまり変わらず、平均利用時間は40分ほど、利用用途はインターネットの利用が多いが、

利用時間は全国調査よりやや短い。

3）テレビの視聴時間は全国調査とあまり変わらない。

4）長崎市などとの情報格差を感じている中学生は1割程度と少なかった。

5）町民ポータルサイト「みっか」の知名度は約2割である。

6）男女別のデータでは、ケータイの利用や、好きなテレビジャンルとしてのドラマ、パソコンで文章を書く、読書冊数、雑誌の定期的な講読、情報格差感といった項目において、女子生徒の方が男子生徒より有意に多い。

7）学年別にみると、2年生においてパソコンの利用時間やテレビの視聴時間が最大となる。

8）活字メディアと映像メディア、テレビとインターネットは利用の上で代替関係にあるとは言えない。

ここで注目されるべきはやはり、ケータイの所有率の低さであろう。ケータイ所有者でも、利用時間の短さからすると、「ケータイ中毒」と言われるような現象は、新上五島町の中学生については存在しない。この理由については、さらなる質的な調査が必要であろうが、考え得るのは、都市生活の中学生と比べた場合の、生活圏の狭さである。都市生活の子どもたちは、例えば電車に乗って塾通いをするなど、家庭と学校以外にも広い移動範囲を持っているが、それと比べると生活圏域が広がっておらず、親もケータイを持たせる必要性を都会ほど感じないということが考えられる。

パソコン、テレビの利用については、全国的な調査との差異がほとんどない。この点においては、情報行動における格差は少ない、と言ってよいと思われる。

もう一つ注目すべきは、情報格差意識の低さであろう。長崎市などとの情報格差を感じている中学生は、約1割と低い。新上五島町でも、高校になると長崎市などへ進学のために出て行く子供たちは多いが、それは情報格差のためではなく、おそらくは教育制度等の方に理由がある。また、地域ポータルサイト「みっか」の知名度が約2割というのは、残念な結果だが、地域情報化政策の限界を示すデータとして、関係者は受け止める必要があるだろう。

ケータイの利用については、高校入学の際に親が買い与えるというケースが、新上五島町では多いとの証言が得られている。今後、中学生の情報行動調査だけでなく、可能であれば高校生（さらには小学生）にも対象を広げて、離島の子供たちの情報行動の特徴を抽出できればと考えている。

注釈

1）新上五島町にある6校の中学校のうち、2校を抽出して悉皆調査を行った。教育委員会および学校の全面的な協力を得て行ったため、回答数122名、回答率100%である。学校で配付し、持ち帰って記入してもらったもので、分類すると一種の留置法と言える。この場を借りて、協力して下さったみなさんに篤く感謝申し上げる。

2）文部科学省による『子どもの携帯電話等の利用に関する調査』。調査時期は2008年11月21日から12月15日で、小学6年生、中学2年生、高校2年生と、その保護者、および学校を対象としている。無作為抽出した学校経由で調査票を配付・回収。生徒からの回収数は16893人、回収率61.8%。

3）内閣府による『青少年のインターネット利用環境実態調査』。調査時期は2010年9月1日から9月20日。層化2段階無作為抽出法によって、満10歳から17歳までの青少年2000人を抽出し、青少年と、同居する保護者を対象に個別面接聴取法で調査を行っている。回収率は青少年調査58.7%、中学生の回答者540人。

4）日本PTA協会の『平成21年度マスメディアに関するアンケート調査』は、小学5年生と中学2年生、およびその保護者を対象に行われた。調査期間は2009年11月24日から12月7日まで。61の地方協議会を通じて対象者を抽出しているが、無差別抽出かどうかは定かではない。配付数はいずれのカテゴリーも2400だが、中学2年生の回答者は1937人で、回答率は80.7%。

5）大都市部（東京都区部や政令指定都市）で50.5%であるのに対し、郡部では26.7%。特に大都市においては「塾や習い事を始めたから」という理由で、携帯電話を持たせる親が多いことも指摘されている。

6）8歳から18歳までの児童を対象とし、サンプル数は各国とも1000人。ちなみにこれは中国と同程度だが、韓国やキプロスはそれよりはるかに高くほぼ100%、メキシコやインドも多少日中より高い数字が出ているが、これはサンプルが中産階級に偏ったためとも指摘されている。ちなみに1日あたりの通話回数でも、日本はこの6ヵ国中最低、メール回数についてはほぼ中位である。日本では定額制が普及しているため、特の諸他国と比べてインターネットの利用が多く、それもSNSや掲示板の利用率が高いという特徴があることが指摘される（田中［2010］）。調査実施団体のGSMAというのは、携帯電話関連事業者による国際業界団体。

7）文部科学賞および内閣府の調査は、インターネット利用時間であって、厳密には「パソコン利用時間」とは一致しないが、内閣府調査平均の38.2分と新上五島町調査の平均40分、および文部科学調査の中2生平均63.5分と新上五島町調査中2生の57分とでt検定を行ってみたところ、5%有意水準で有意な差はなかった。

8）学校読書調査は、毎日新聞社が（社）全国学校図書館協議会の協力を得て行っているもので、第56回調査は2010年6月上旬、調査対象校の各1クラスについて、集団質問紙によって調査が行われた。回答数は、小学生2866人、中学生3394人、高校生4226人。

9）「知っている」「知らない」だけの選択では、見栄等から「知ってる」を選ぶ可能性も出現することを考え、「知っている」の場合にはその用語についての説明を求め、それが明らかな間違いや的外れの場合には、「知っている」から除外した。

10）パソコン使用時間、テレビ視聴時間については、数値データとして扱っている。また、このアンケートは、個人を無作為抽出したものではなく、新上五島町の6校の中学校のうち2校を任意抽出し、その学校での悉皆調査であるから、純理論的には分散分析やカイ二乗検定をそのまま使ってよいのかどうか問題点が残ると思われるが、「どのくらい強い根拠で差があると言えるのか」という参考として見ていただきたい。

11）もちろん、時間を追って代替して行くといった関係は、この一回の調査からは推察することはできない。また、テレビの視

聴時間、パソコンの利用時間に加えて、ここでは本来は度数尺度である新聞の閲読頻度も、量的データとして扱っている。

12）ちなみに、活字メディアの内部での、新聞の閲読頻度と、読書冊数との相関係数は0.085で、ほぼ無相関であり、新聞をよく読む人ほど、多数の本を読むということではないことが分かる。

参考文献

赤坂瑠以＋坂本章「携帯電話の使用が友人関係に及ぼす影響」『パーソナリティ研究』16（3）pp.363-377.

インターネットメディア総合研究所（編）『ケータイ白書2011』インプレスジャパン、2010.

Ling,R.,J.Donner,“Mobile Communication”Polity Press,2009.

毎日新聞社『読書世論調査』2011年版、毎日新聞社東京本社広告局、2011.

モバイル社会研究所『世界の子どもとケータイ・コミュニケーション』NTT 出版、2009.

日本 PTA 協会『平成21年度　子どもとメディアに関する意識調査調査結果報告書』

下田博次『子どものケータイ利用と学校の危機管理』少年写真新聞社、2009.

竹内和雄＋金山雄一「中学生の携帯電話依存を規定する諸要因の検討：携帯電話依存がライフスタイル、ストレス反応に与える影響」『函館大学論究』第41輯，pp.29-43, 2010.

田中辰雄「子供に携帯を保有させるべきか」国際大学グローバル・コミュニケーションセンター編著『未来を創る情報通信政策』NTT 出版所収、pp.80-98,2010.

読売新聞社会部『親は知らない：ネットの闇に吸い込まれる子どもたち』中央公論新社、2010年。

参考 URL

「子どもの携帯電話利用等に関する調査」の結果について　文部科学省ホームページより
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/05/attach/1266542.htm

「平成22年度青少年のインターネット利用環境実態調査」内閣府ホームページより
http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h21/net-jittai/pdf/kekka.pdf

（付）**質問票**

これはメディア利用の実態に関する調査です。調査の内容は、集計して利用し、個人を特定できる形で利用されることはありませんので、なるべく正直に答えてください。以下、選択肢のあるものはあてはまる方に○をつけ、記述式のものは（　　）内に回答をお書きください。

1．あなたは自分のケータイを持っていますか？
持っていない　　持っている
（「持っていない」を選んだ方は 2 に、「持っている」を選んだ方は 3 にお進み下さい）

2．あなたは自分のケータイが欲しいですか？
とても欲しい　　ある程度は欲しい　　あまり欲しくない
まったく要らない
（10にお進み下さい）

3．あなたのケータイの料金は、月額いくらぐらいでしょうか。
2 万円以上　　1 万円から 2 万円　　5 千円から 1 万円
3 千円から 5 千円　　3 千円以下

4．あなたはケータイを、すべての機能を含めて、1 日何時間くらい利用していますか？
8 時間以上　　4 時間から 8 時間　　3 時間から 4 時間
2 時間から 3 時間　1 時間から 2 時間　　30分から 1 時間
30分以下

5．そのうちあなたがケータイで通話をする時間は、1 日何時間くらいですか？
8 時間以上　　4 時間から 8 時間　　3 時間から 4 時間
2 時間から 3 時間　1 時間から 2 時間　　30分から 1 時間
30分以下

6．あなたは 1 日にケータイでメールを何通くらい受信しますか？
100通以上　　100通から50通　　50通から20通
20通から10通　　10通以下

7．あなたは 1 日にケータイでメールを何通くらい送信しますか？
100通以上　　100通から50通　　50通から20通
20通から10通　　10通以下

8．通話とメール以外で、あなたがケータイで使っている機能は何ですか？あてはまるものすべてに○をつけてください。
音楽のダウンロード　インターネットでの検索　ゲーム
写真の撮影　動画の撮影　おさいふケータイ　GPS
ブログ　SNS（mixi やグリー）　ワンセグ放送の視聴
その他（　　）

9．あなたは以下の行為をしながら、ケータイを使うことがありますか？

通学中
よく使う　　時々使う　　まれに使う　　使ったことがない
食事中
よく使う　　時々使う　　まれに使う　　使ったことがない
読書中
よく使う　　時々使う　　まれに使う　　使ったことがない
テレビ視聴時
よく使う　　時々使う　　まれに使う　　使ったことがない

お風呂に入っている時
　よく使う　時々使う　まれに使う　使ったことがない
就寝直前や起床直後
　よく使う　時々使う　まれに使う　使ったことがない

10. あなたはパソコンを持っていますか？
　自分用のパソコンを持っている　家族で共用している
　家にパソコンはない

11. あなたはパソコンを一日平均どのくらい使いますか？
　8時間以上　4時間から8時間　2時間から4時間
　1時間から2時間　30分から1時間　30分以下

12. あなたがパソコンで使う機能は何ですか？いくつでも丸をつけてください
　文章を書く　表計算ソフトを使う
　プレゼンテーションソフトを使う　インターネットを使う
　音楽を聴く　DVDなどで映像を見る　ゲームをする
　その他（　　）　使わない

13. あなたはテレビを一日平均何時間くらい見ますか？
　8時間以上　4時間から8時間　3時間から4時間
　2時間から3時間　1時間から2時間　30分から1時間
　30分以下

14. あなたがよく見るテレビ番組のジャンルに丸をつけてください（いくつでも）。
　ニュース　ドラマ　教育・教養　バラエティやお笑い
　ドキュメンタリー　その他

15. あなたはふだんラジオを聞きますか？
　ほぼ毎日聞く　時々聞く　めったに聞かない
　聞いたことがない

16. あなたはふだん新聞を読みますか？
　毎日読む　ほぼ毎日読む　時々読む　めったに読まない
　全く読まない

17. あなたは（教科書、参考書以外で）本を一ヶ月に何冊くらい読みますか？
　（　　）冊くらい

18. あなたが定期的に買っている雑誌はありますか？ある場合にはその名称を書いてください。
　（　　）（　　）
　（　　）

19. あなたが新上五島町で暮らしていて、たとえば長崎市や佐世保市と比べて、情報格差を感じることはありますか。あるとしたら、どのような場合ですか？
　ある（　　）
　特にない

20. あなたは、次に挙げるような情報メディアに関する用語を知っていますか。知っている場合には意味を書いてください。
　ブロードバンド（　　）
　　知らない
　グーグル（　　）
　　知らない
　スマートフォン（　　）
　　知らない
　LAN（　　）
　　知らない
　ADSL（　　）
　　知らない
　ビット（　　）
　　知らない
　みっか（　　）
　　知らない

21. 最後に、あなた自身の学年と性別について教えてください。
あなたの学年　1年生　2年生　3年生
あなたの性別　男子　女子

アンケート調査は以上です。ご協力どうもありがとうございました。